

国語 第5学年 事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう

検討会の想定問答

指摘 1: この単元で身に付けることは何か。

返し: 事例の紹介と書き手の意見を区別し、情報を受け取るときにどんな判断を保留し、何を確かめるかを考える。情報に気を付けようという標語で終わらず、本文の事例が意見のどこの根拠となるかを説明する。C(1)オの学習として、情報の受け取り方についての意見文。本文の事例との関係、自分がそう考える理由、今後確かめたいことを別々に書き、本文の要約だけで終わらせない。

指摘 2: 何をもって学習できたと判断するか。

返し: おおむね満足できる状況は、本文の事例と意見を関係付けて読み、情報の受け取り方について自分の考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3: 活動が楽しいだけで終わらないか。

返し: 情報の受け取り方についての意見文を残す。本文の事例との関係、自分がそう考える理由、今後確かめたいことを別々に書き、本文の要約だけで終わらせない。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4: 難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し: 本文にある事例をそのまま自分の経験として書く、書き手の意見を写して自分の考えとする、情報はすべて疑えばよいという極端な結論にする。これについて、ノートに「本文に書かれている事実」「書き手が述べる考え」「自分の経験・考え」に分ける。自分の経験が出ない児童には、身近な案内や写真の説明を教師が作り、そこから確かめられることと確かめられないことを分けさせる。〔知識及び技能〕(2)アとC(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5: 考えが違ったときはどう扱うか。

返し: 教師の結論を選ばせず、「書き手の意見に納得したのは、どの事例の、どんなところからですか。納得しきれないところには、どんな情報が必要ですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6: 本時の評価で態度まで決められるか。

返し: 本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7: 端末がない学級でもできるか。

返し: 情報の受け取り方についての意見文は紙に記録できる。本文の事例との関係、自分がそう考える理由、今後確かめたいことを別々に書き、本文の要約だけで終わらせない。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8: 時間が足りないとき、どこを残すか。

返し: 総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9: 情報モラルの授業とどう違うのか。

返し: 行動上の約束を覚えさせる時間にはしない。C(1)オに沿い、書き手の意見を本文の事例で読み確かめたいうえで自分の考えを形成する過程を評価する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「書き手の意見に納得したのは、どの事例の、どんなところからですか。納得しきれないところには、どんな情報が必要ですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

